

御殿堰 大黒天便り



◆第一八号◆

山形市中心市街を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。



「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など『なるほど!』と思っていただけの内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第一八号です。

◆啓翁桜キャンペーン実施◆

近年、冬に咲く桜として注目を集めている山形特産の「啓翁桜」。この啓翁桜をより多くの方に知っていただくため、山形市の中心市街地に啓翁桜を展示して「桜咲くやまがた 冬のさくらキャンペーン」を開催致します。

■桜メニューの提供

参加施設の飲食店で、桜や春をテーマとした限定メニューを提供します。水の町屋御殿堰では、そば処庄司屋とクラシック・カフェにて桜の限定メニューをお楽しみいただけます。

そば処庄司屋

桜海老天そば(セット)

一月二十八日(土)〜三月四日(日)

クラシック・カフェ

桜のチーズケーキ桜のアイス添え

一月二十八日(土)〜三月四日(日)

■私が名付けるさくらキャンペーン

水の町屋御殿堰では、『岩淵茶舗』に新種の桜を展示しております。桜前に設置してある応募用紙に、必要事項をご記入の上、投票箱へご投函下さい。

『私が名付けるさくらキャンペーン』では、それぞれの施設(※)ごとに異なる新種の桜が展示されています。まだ名の無い桜に名前をつけながら、街なか歩きをお楽しみください。

【期間】 一月二十八日(土)〜二月二十六日(土)

【命名発表】

三月四日(日)

【特典】

命名者には、施設利用券と新種の桜を贈呈致します。

※新種桜を展示している施設

- 水の町屋御殿堰 岩淵茶舗
- 山形屋台村ほっとなる横町
- 山形まるごと館 紅の蔵
- ホテルキャッスル
- ホテルメトロポリタン山形
- ホテルサントリート山形
- 山形駅西口ワシントンホテル
- 山形グランドホテル
- 山形七日町ワシントンホテル

■「桜」雑「川柳」募集

桜や春、雑をテーマとした川柳を募集します。優秀作品受賞者には、参加施設利用券と啓翁桜を贈呈致します。

【期間】

一月二十八日(土)〜二月二十六日(日)

応募用紙は、水の町屋御殿堰では、『岩淵茶舗』に設置しております。



山形あれこれ

⑭紅花と雛人形

紅花の原産地はエチオピアとも言われ、エジプトからシルクロードをたどって六世紀頃に日本に伝来したといわれています。

山形県では一五世紀半ばから栽培が始まったとされていますが、江戸初期には質・量とも日本一の紅花産地として栄え、最盛期には全国の五割〜六割を山形産が占めました。

最上川沿いの肥沃な土地が主産地で、朝霧の立ちやすい気候が、トゲのある紅花を摘みやすくしたといえます。

「まゆはきを佛にして紅粉の花」

の句は、芭蕉が奥の細道の旅の途中、山形を訪れた時に詠んだもの。

当時、紅花なくしては山形を語れなかったのでしょう。

紅花交易は文化の交流にも大きな役割を果たし、巨万の富を築いた豪商も数多く現れました。現在も県内各地に、紅花に関する史跡や資料館があり、当時の記録をとどめています。

この最上川流域で、なぜ紅花の大産地が形成されたのでしょうか。

気候・土壌が栽培に適していたということもありますが、山形の他に、奥州福島・奥州仙台・奥州三春・西国肥後・尾張・遠江・相模などで生産されていた為、気候・土壌が決定的な要因だったというわけではなさそうです。むしろ、最上川の舟運で山形と京都や大阪が北前船によって深く結びつき、紅花商人たちが活躍したことが、産地の拡大に繋がったといわれています。



舞妓さんにもみられる真っ赤なおちよぼ口。その紅は紅花から抽出した染料で、江戸時代には「紅一匁(もんめ)金一匁」といわれるほど大変高価なものでした。

かつて川の道として栄えた最上川は、紅花をはじめ、多くの物資を京へ出荷し、京からの帰り荷として仏像や鮮やかな衣装など、華やかな京文化を持ち帰り、各地に広く商いました。行きで儲かり、帰りでも儲かるということで、この商売は「ノコギリ商売」と呼ばれたということでした。

その持ち帰った文化のひとつが雛人形です。たどりついた雛たちは川沿いの町の比較的豊かな家で飾られ、今では全国的に雛の道として知られるようになりました。三百年も前の古代雛たちは今でもそれぞれの美しさを誇っています。

現在でも、最上川流域の市町村には、紅花商人たちによって京から持ち帰られた江戸時代の雛人形(享保雛・古今雛など)がたくさん残存し、「山形雛のみち」や「庄内雛のみち」といわれるほど雛祭りが盛んに行われています。

山形市内では、二月中旬頃から「やまがた雛のみち」として展示が開催されるようです。

水の町屋御殿堰では、日本三大吊るし飾りと言われる『酒田・稲取・柳川』三地域の手作り吊るし飾りを展示します。是非、足をお運びください。



次号の発行は三月七日です。来月も皆様と紙面でお会い